黒雲太郎夜雨譚

良斎作
英泉画

六冊

新鐫 春子

へ13
3862
2

市川團十郎校合

へ13
3862
1

へ13
3862
1

門へ13
號3862

黒雲太郎雨夜譚

校合　市川三升

作者　乾坤坊良齋

画工　溪齋英泉

文政十一戊子春新鐫

全本六冊合巻　前編

南傳馬町二丁目
紅英堂
蔦屋吉藏上梓

夫天地を一大戯場あり山川江海の法道具を日月乃
光光照〳〵中にたゝゆる森羅萬象こゝにきもの中にも
皆造物者の無盡藏よりも出善因悪報さき定やらぬ世の
ゆゑ〳〵譬ば双六賽のちやう目ち目との相異なるが如く
愚ごのゝ心を一小冊天地の戯場をこゝろ寸心弘世を盡藏
善悪邪正なる緒道具を出〳〵ゆゑ顔見世の為序幕
を拵へ諸君の評判を願ふ次乃巻を来春の待ゝ日見ゝ

子春新版

市川三升校合
良齋誌

文覚上人悪魔伏

僧の文覚上人は渡邊の黨そ遠藤左近將監盛光が子そ十八才にて出家し諸々の荒行の内木曾山の奥鬼が嶽より天地よりゆる悪魔と封じこめの後年に成り天狗坊雷元が子の伏魔殿を破り百の悪魔四方に飛んで源家頼家の代一度乱る

山熊平吾は中納言友盛の忠臣ゆくゑの首をきゝ友盛の一子黒雲太郎を守護ゐ木曾の平吾の火是そ

稲妻の霊魂

稲妻御前は友盛卿の妻そ執念源家ゐあざせんと鎌倉御所の夢を殺し頼家をそこそ

化物の生鮮
枯尾花
也由

雷元本僧の伏魔殿の

天狗坊雷元は教經の郎黨童臣の菊王丸と主人の残言よろて対死をのがれ後年本曽の鬼ヶ嶽に伏魔殿を建て悪神を四方まもらん

天狗坊雷元

首塚より妖法を行ふ

角田川の渡守女海盜都鳥のお松悪七兵衛
景清が妻都五条坂の按君阿古屋夫景清
行方もれざるる後ながら川のうきぶし
ごとやうが
花女房や
ぢうの花
良齋
都鳥の於松
源家よ仇
せうとまろる

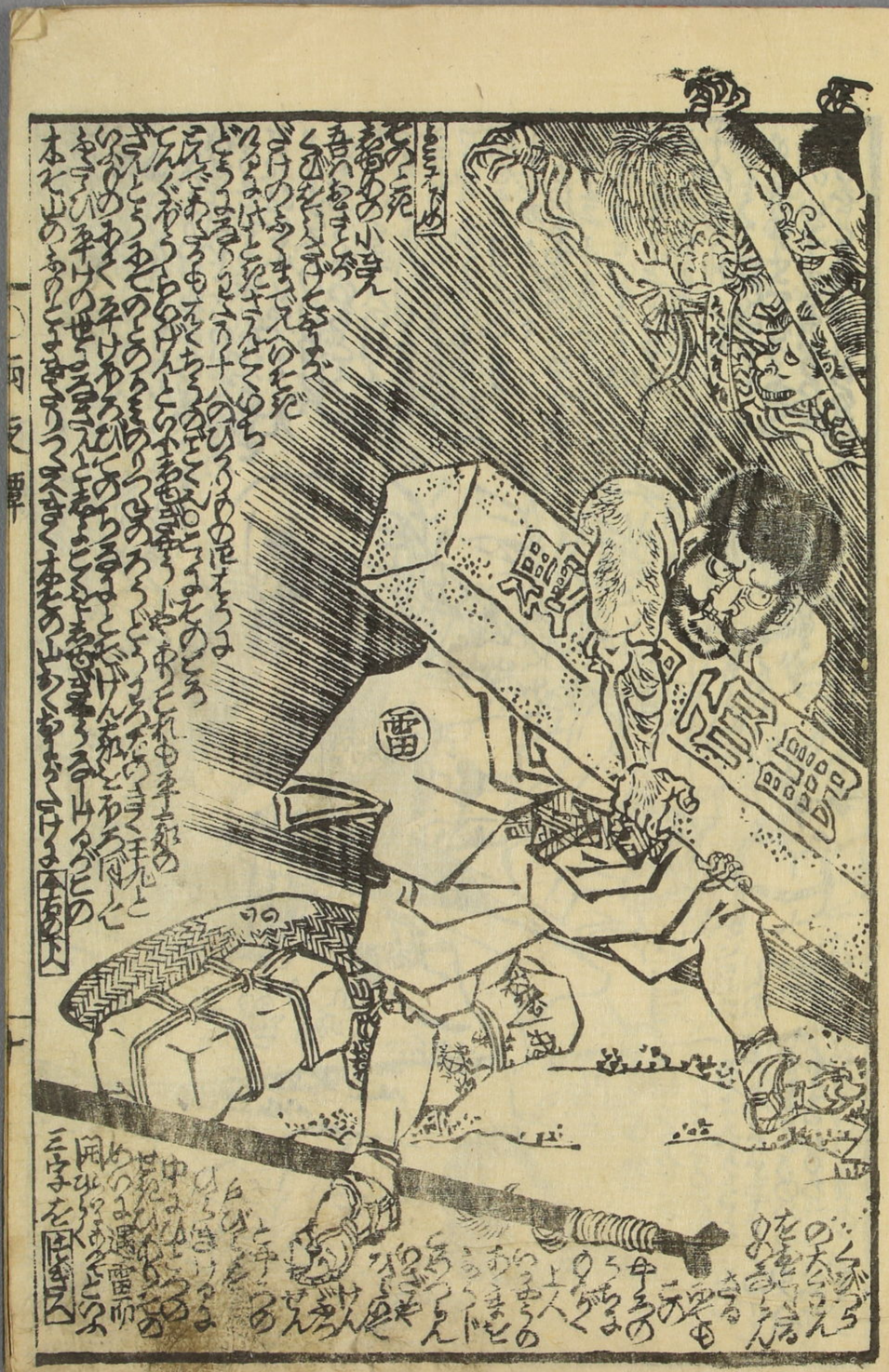
浅草寺の一ツ家の花女山岩波ハ
安徳天皇の宮女典の局ろり
天皇を娘として志のだせより
軍用金をもつめんと
旅人をとめて石の
枕をさせ大石を
おとして金をとること
数ヨヘ是も後年
よいくろり
日をくれて
飛ぶやうまを
とも宿るる
浅草寺の
ひとろかのうち
一箇家の
山岩波婆
黒雲大郎

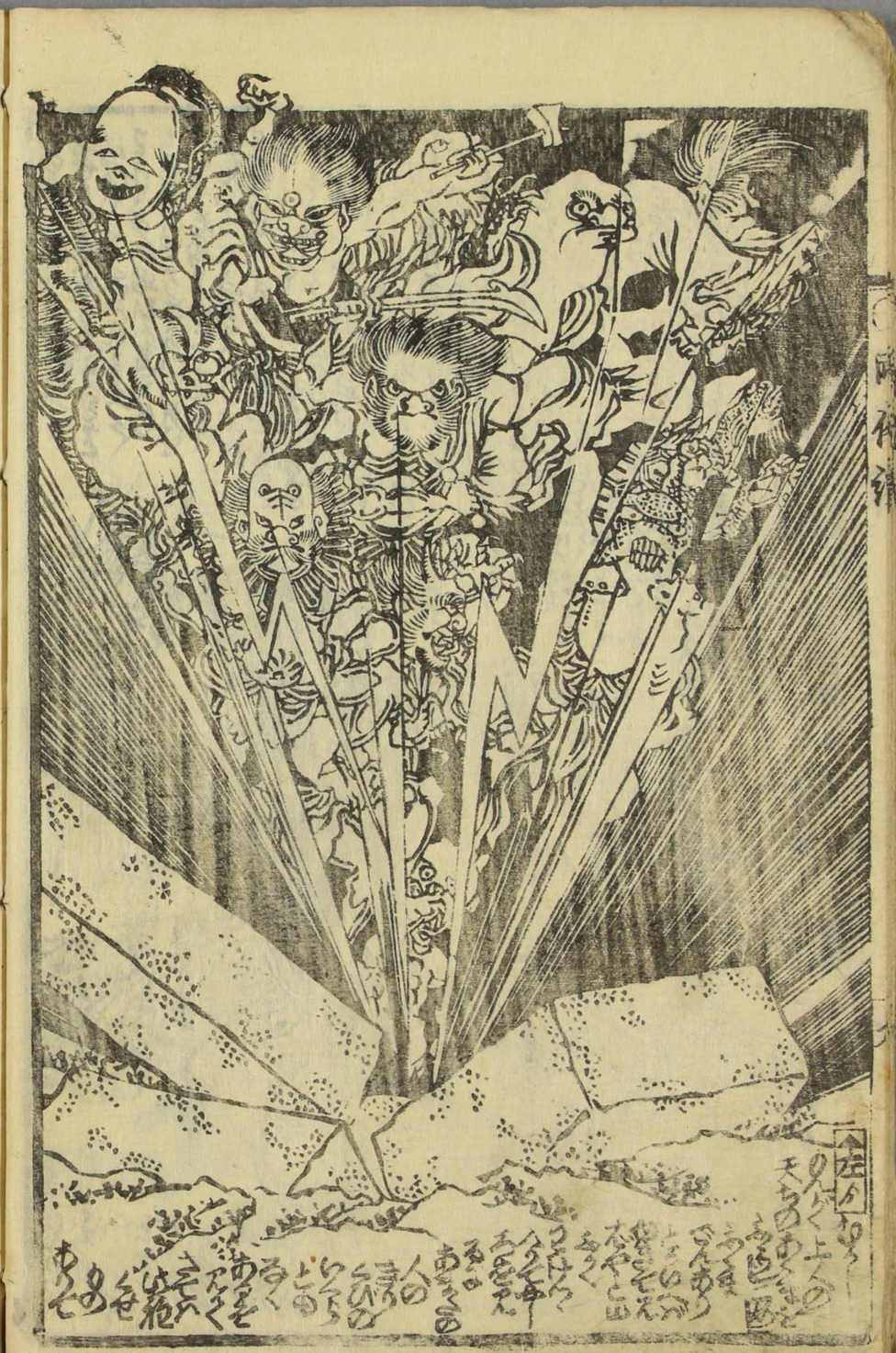
まづく十八人の英勇の畧傳ありとの人ども紙数にかぎりあるをのつく今
さらに四人の傳をいづれを残まる十四人の傳あらびに黒雲太郎が傳ハ
二編よりつくとて洩せり来春の出版よろしくせんと欲まるのみ

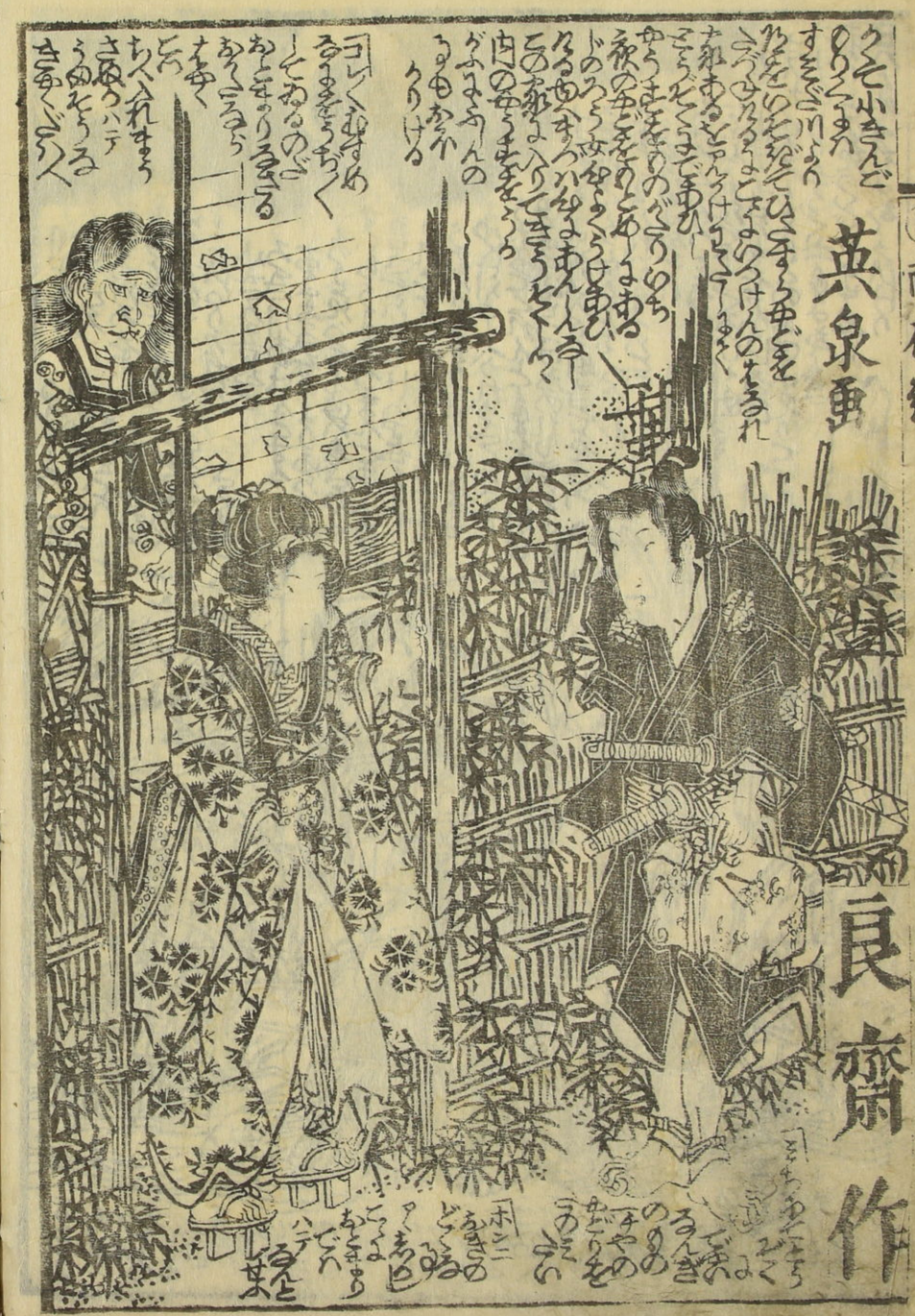
あつさん　そのころ平家の一門さいらいのるこにあつびひとこびと大平をそなたひらを中りるとんなりの一ぞくろくも太らさんとるんたのらんおのをうぶ
ぬるとくるとくらるるぐんとりのりのつのいるぐまもせんとやせこいらるるとう山ぐまを平五とこのふのとこのとくるとを七の山ぐくるくれるるるるるのりんいるたつまのるこをまこどるんせぐいるつまひをるるるるるとるとるるるるるとるるるるる

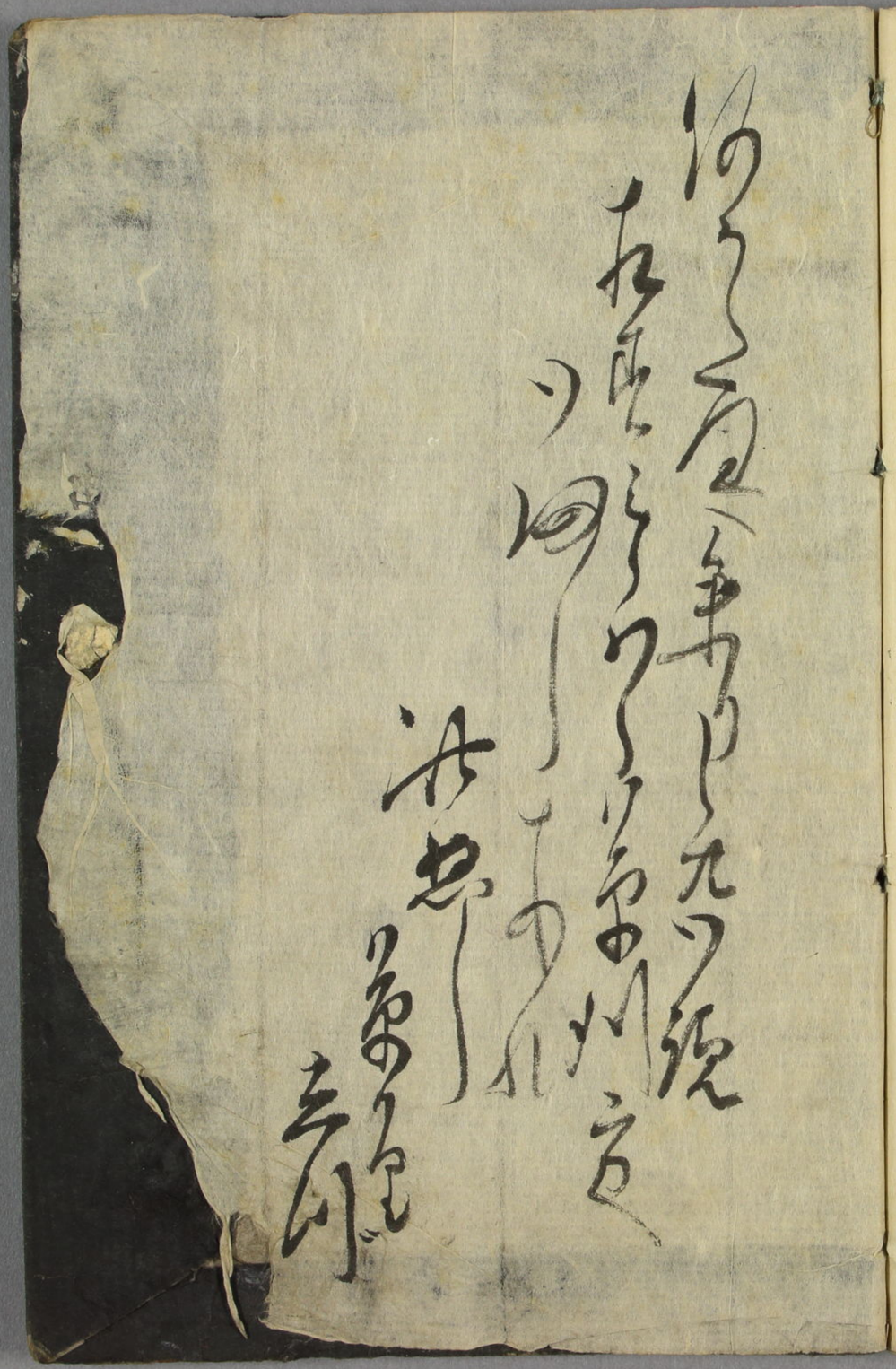
雨夜譚
二の巻

雨夜譚
二の巻






英泉画
良齋作



黒雲太郎夜雨譚

良齋作
英泉画

六冊

新鐫春子

へ13
3862
2

門へ13
3862
巻 2

市川三升按合
乾坤坊良富作　丹緑摩画

黒雲太郎雨夜譚

渓斎英泉画

文政十二己丑年新板

上梓

四の巻

五の巻

西夜譚

右の下へ

作者曰「これらの
りるぶまぶ
まいこえ
いくさこうりを
ゐくよりこゆ
ゐこ川ゆ
つきこ川ゆ
あやこのあよ
入れてオ
あよこう三代目
ゐりのこらんん
しそたこえの
めんくめつ
ぶうまこふぶ
まこぶ第二入ん
めこくたしく
しく者ちこえの
日もちんきこ
あちんに方の
ん子こぶりと
りとあ後あ入七
者くらんのち
ちくれひ者ち
ちんをのらを
ク

うぶき 小平六をひきのべ
いろ〳〵ざんこうをひろる
小平あせひるく大ひめぎそ
あんまるをこうそまのび
ちらり ようしゃもとりく
どもいひとけあひこぶ
けめのもうちこひ
ざひとうこれもいる
づまぶまいらのうん
ところゆそ小平六
あつちうのせんぶを
ぶまーうちこまこる
むひとまられう
これのこうるぶ
すぐひまう
ぶをえこうら
きーりの
とりいのこ
らぶを者ぐの
こぶらひこ
あひくいのちを
あとたす日こうり
○ここ又平家のきえ
ぶちむこうんのちまあつり
つのあひのぶむひめこあつと
あつりこるぶへうちーみ

あひこのちめのところ竹と
とりよちよくひう
ちこうやそびときこう
めつりつのこをを
刈こ而もなくえ
ろこうぶうりこえ
平ちこ竹がある
あぐこの平治とひ
ひの今へげ者ム
こうきーこあこう
ありときこれをこの
ここ刈のあんひを
きこひんとひこ
こうよまのびく
こまくこう
ちりこあちよ
りこそたこぶ
ぶりのこよ
きこぶひけこ而よ
ひこ山のありや
とぶこうすトひ
ゆきよかのこくこよ
これをこんこけこうきくこの
きこぶおまれ ひめこれハこそ
こくらんとするをめのところ竹

つぶこ

「ちこちこむこひ
ちこまいこの代
こんぶむこひ」

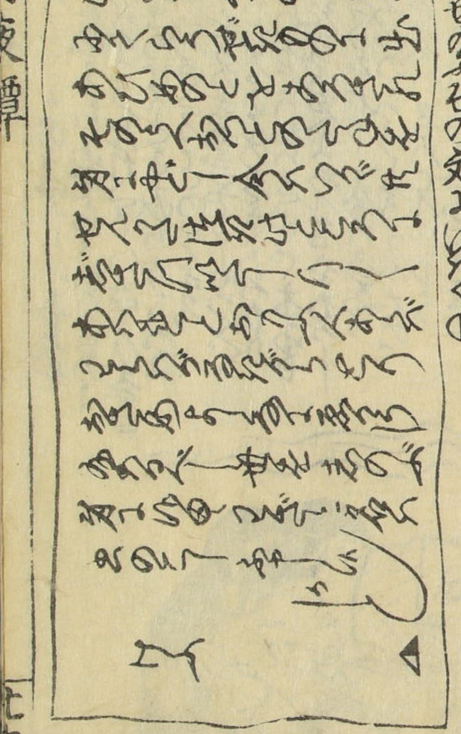
鎌倉花水橋
是より左り鶴ヶ岡江廿丁

つぎ　これくらをくてまんぜんとのひろれば
あれよりよろこびさうがをつへくのあつべー
世こあるへつのひとふでまるれがるくぬと
いるこけをうきのこてておきてとの
さむうひのをくそをうそふと
ところこをとりくてふこと
ぐくとうをのとをとのひまく
うのさむうひいてたうる
ホゴうこあむりごと
ちびをむをびさげ
あのれごびこまき
つけてこれくよく
ろをへくうーてむくの
のくこううんでと
いろくまくをあ
うちろうーへる
しくこあめふこ
どもさだめ
るくひくの
くこをでと
そのまあてん
だろとうあーる
をふうてるむ
ゆうもあむひめ
ころとだろくこあど
ろをのふれの天の美へ

○京だ一南てんま町二丁目
いるあんたはなし氏義
せけんるのあんの母の某わろん
美艶仙女香　一包四十八文
おろうぞ四ひるうぐん
なま弟上い

「こんるまこ
うめくるの
るいあご
いもと
ちろそ
まへ
いうれく
ちや
ちろりろ
えーんご」

五の美多　てんどうふくぐくりてさんのけつきく
うぶこくろくむの男子をうみあとこうる天
あるくまこるひとりのをとと来ろやこてひまう
はををそれをうるぶき点くりそのをもの
あれりをひつをくくく小うをれろくこあがこてこ
えをやきくろ考ろるをこるこのるうれく
上くあてでーのくまぐれけをうあーをとも
るひ糸ゆくろうまくてへくうあををされその後
ゆきのくこををありうやをあるくくあるるの
るをこをこ考ーこるのをのひふのさもうひの
ひろ中来りんのふこどろ立年をあまろのこの
らひくりのるるのに今くこふとをゆうをあうぶ
そををこうをあをてのものあるをひろひとりてれをくるひこ
よくまをのふをのの文ようりくの



つづき ひとりをさうとーとのうゆうらの者どを
さうひゆうく来るなのうちゆそらうぜをめこ
でゐひーがめのとりつひこうたれこうりのきがひるきこ
ゐとあるひーまう者さうせんとくみちゆくこ
ゐをさくきこうぐそをこうぐこうることのてまろ
者ろうぐとめぐこうるをうの者ぎゐうーやこぐ
ときこのそいうう君いむりこうのちまわつり
そのみぐいゐむ ひめゆそいあうさぎやまゆも
こさこゆもこうをあゐのこ丑こあイ名をわうー
ののうざるのうつもうりそれうーこういるゆう
つまえのとのうこのりつひのらうどうこうちの
きく王とやもものゆ今の名ハてくぐやう
られげんとやもこうりこれまゆ山ゆそこぎ
いひのうここふぎこのつうやこをこうぐう
天地のむのぐをえゆくぐんきゆりうこうび
こうちをうゆまうのうこうこれううきここを
むこーのゐここのうひまのくせをここぐ
川のうこーりみやこうりのゐまつがゆくこ
めつけゐ今のゆこきをこうりまのうせん
ききこをこれまでつれまのくこうこのこせ
ののゐこうこのうこるのゆそこうゆ
うこいうーをーこ世をここうこうこうこれ
こうこつこうこるのこうこうこ者こつうゆく
ゆうきゆうこうをこうこうせこうこうひのこうこ
これゐことこをこうこぶこうこうひこ

(三)うらすんこ
おいのうこえ
ゐゐうこ
さこここびこうを

こうせめのいのこをきこうこーゐこうを
ハこそこうこえのぶちこゐをこここ
てサテくこうこゆけまこ
ゐこうイこくこうれゐここうこひこ
こうえけこれどのこうまゆゐこをこ
のちどこをこうゆやハせこトこをこ
こうこうんとこれこうこ大小大きこ
ゐここうきここうこゆのがゆこの
ゐこうこをこうこえこいうひこう
こうひこうここれハこ
ゐここうこ

(三)

ひゆここゆ
おこうひけんこの
こうこのり
ひこうこゆこ

ゐこをゐここく
ゐここゆくこうこ
けんハこうこうこ
ここうひこゐこ ひゆを
いこここうひこゆここここ
ゐこゆきこけこ

○ここうこすこここ川のこここここ
みやこここりのこゐここここここ
ゐゐの山ゐこここ又ゐこゆこのこここ
五こここここここゆこゐここここ
くこのみこくここここここここ
ここうこきここここここここ
こここここここここ
ここここここここ
こここここここ
ここここここ
こここここ
ここここ
こここ
ここ
こ

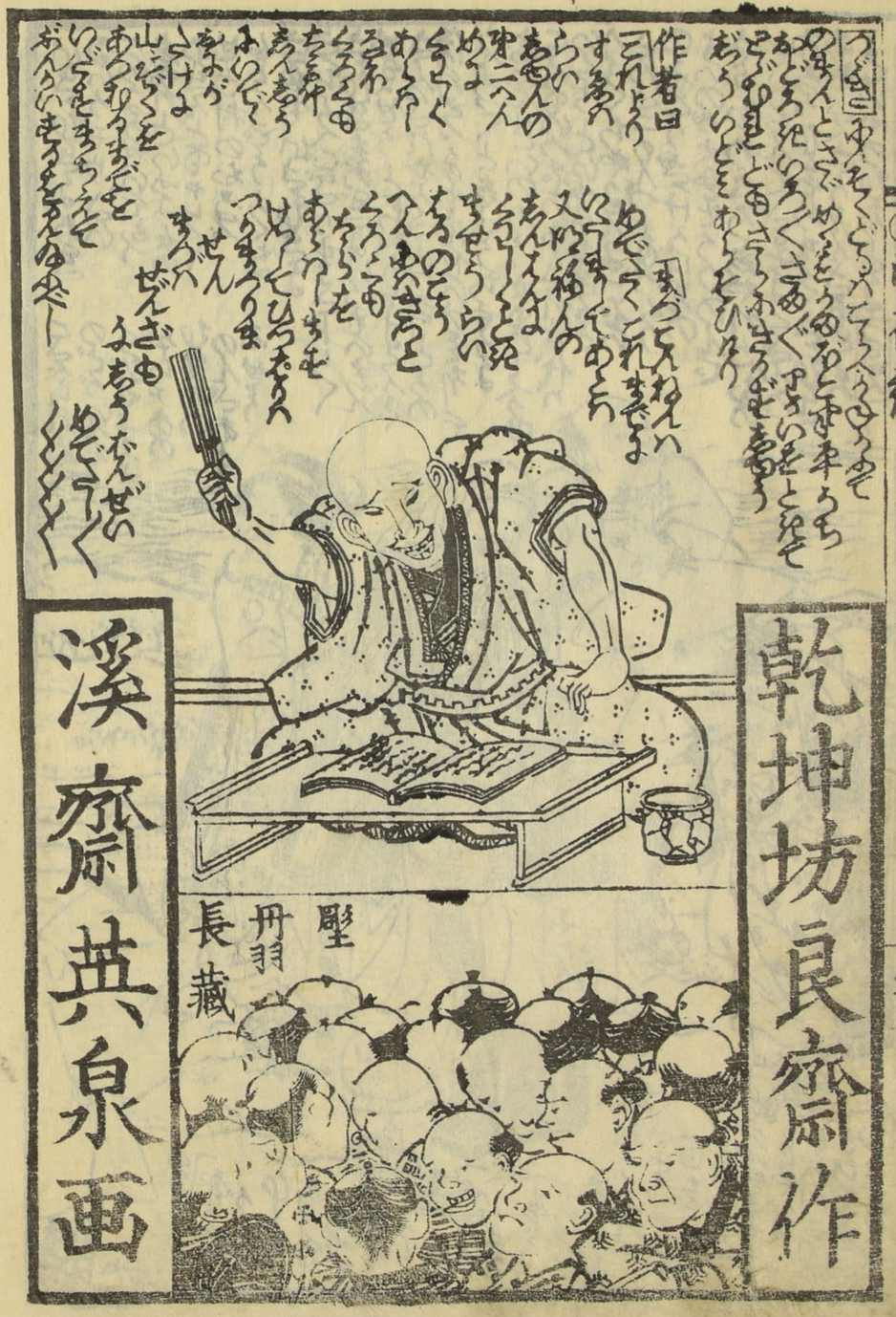
ここここ
ここここ
こここ
ここ
こ

万ちゆの礼こここここここ
ここここここここ
こここここここ
ここここここ
ここここ
ここ
こ

雷

岩
松

つぎこうしてまりさうぞくのうをどそんびこりのかとものるよ
をどのことゆうんやみこころまもくさいーませとみやうら
これをさのアまうーこ二十人のわんそこうよれりうをゆるりを
こうーもー十月のるうをゆそけんくん人をうるものとえ
みちのくを志あるくうーしておどるくちゆいどこうよ
りのどくる川のどのようくるこのヨわこうあえをもらふ
さもれえとさスぐくゆんそくどものるんぎえくこうしぞも
いうゆもーてさうやをんらぐーいうえのんではさむ
さを志のぐんとつぶやゆそうあるこまを本大きうよ
せのーこのせうとうそくみちくまそびこりあの
うちこまびまをぐまりをいはきくこれをこびーどよ
のまセろぎんるどこうそよりをきくこう
るえちらけっーしくゆうちふちゆまもる
ませはつーしえくうもくやきけこるどく
ぶらまりあをゆるえくうぶものーしこれを
ゆるるよありくくつぶさよ上ふべかわけあのく
くりくつぶさよ上ふべかわけあのく
ざのうるまりつけんとゆうそゆきうる及
ゆそくどもうくうくちきよれうら
ちくーだんるいわてうよきう
さるゆくそのうくうくう身のエと
るれいるゆのをれるゆもう
るのゆさうのうれ
いちこれくいあも
ゆをゆるるくこの
さもさよ



文政十一戊子春新刻目録

萬壽屋八ッ橋
二個次郎左衛門　杜若紫再咲　六冊　岩井粂三郎作　溪齋英泉画

復讐奇談　黑雲太郎雨夜譚　六冊　市川三升校合　乾坤坊良齋作　溪齋英泉画

傾城艷擬三國誌　初編　六冊　一華葊主人作　哥川國安画

美艷仙女香　晴雨両天傘　代金五匁　黑油美玄香　軍八交　坂本氏製法

地本錦繪問屋　京橋南傳馬町一丁目　紅榮堂蔦屋吉藏版